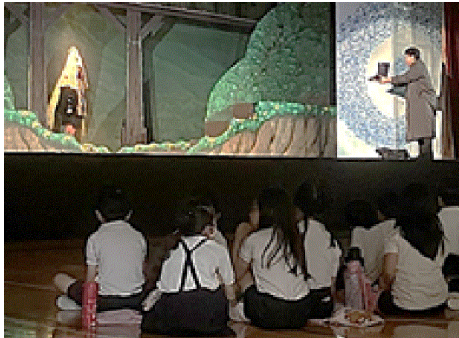




# うきにしだより

“ことば”を受け取る・“ことば”で伝える



古傘の妖怪の名前は“雨降り小僧”——今年の芸術鑑賞会は、劇を観ました。演目は手塚治虫原作の『雨降り小僧』。

雨降り小僧は、主人公モウ太が履いている長靴が欲しくてたまりません。3つの願いを叶えるかわりにモウ太の長靴をもらう約束をします。3つ目の約束を叶えた時、モウ太が町へ引っ越すことになり、約束は果たされないまま40年の月日が過ぎ……待ち続けていた雨降り小僧のところに、大人になったモウ太が長靴をもってやってきます。

子どもたちは、目の前で繰り広げられることばのやりとりにじっと耳を傾け、コミカルな場面では笑い、切ない場面ではしんみりとしながら、物語の世界に入り込み全身で受け止めていました。



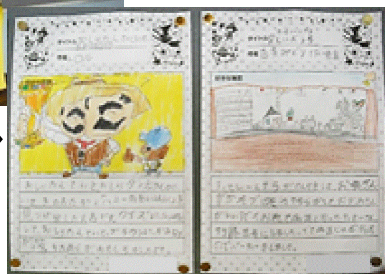
5月1日号でお知らせしたように、学習する時に、子どもたちが「自ら進んで伝え合う」ことに重点をおいて、

- 豊かな“ことば”の環境の中で語彙力を高めること
- 自分の考えを“ことば”に表す力を高めること

に取り組み、子どもたちが考えを深めながら学んでいくことを大切にしたいと考えています。



印象に残った場面をことばとイラストで紹介しています。



“ことば”を豊かにする活動の一つとして、読書を通して自分の好きなジャンルを見つけ「本って楽しい！」と感じる活動や体験を増やしていきます。

これまで、全校で季節ごとに「みんなの木」をつくっていましたが、今年は「読書の木」としてリニューアルし、本の紹介カードを交流しています。

紹介のトップバッターは4年生！カードに書かれた本の紹介文を見て、読んでみたい本を投票します。さて、みんながいちばん読みたい本はどれになるのでしょうか!!

また、図書委員会の子どもたちも図書室に

あるオススメの本を、6月の全校朝会で紹介しました。Meetの画面を通して、表紙を見せながら、あらすじやオススメポイントを伝えました。

各学級では、豊かな“ことば”にふれる機会にしようと、週3回、1時間目が始まるまでの時間を読書タイムにしています。自分で選んだ本を1冊読み切り、読書通帳などに記録を残しています。

3名の図書委員の子どもたちが紹介した本です。ポップをつけて図書室前にも展示をしています。

